

解答はすべて解答用紙に記入し提出して下さい。

第1回 簿記定期試験

問題用紙

3 級

(制限時間 2時間)

簿記の教室 メイプル

第1問 (20点)

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	普 通 預 金	当 座 預 金	受 取 手 形
売 掛 金	前 払 金	未 収 入 金	受 取 商 品 券	
仮 払 消 費 税	仮 払 法 人 税 等	支 払 手 形	買 掛 金	
前 受 金	借 入 金	仮 受 消 費 税	未 払 消 費 税	
未 払 法 人 税 等	資 本 金	繰 越 利 益 剰 余 金	売 上	
仕 入	発 送 費	租 税 公 課	法 人 税 等	

1. 広島商事(株)は商品 ¥850,000 を兵庫商事(株)より仕入れ、代金は小切手を振り出して支払った。なお、当座預金の残高は ¥300,000 だったが、銀行と ¥1,000,000 を限度とする当座借越契約を結んでいる。
2. 静岡商事(株)は得意先である京都商事(株)に、商品を ¥620,000 で販売し、代金は掛けとした。なお、先方負担の発送運賃 ¥10,000 を現金で立替え払いした。
3. 秋田商事(株)は決算を迎え、法人税等の金額が ¥480,000 と確定した。なお、期中に ¥250,000 の中間納付を行っている。
4. 鹿児島商事(株)は会社の設立にあたり、株式 1,000 株を 1 株あたり ¥50,000 の価額で発行し、払込金は当座預金とした。
5. 石川商事(株)は商品を ¥70,000 で販売し、代金は地元商店街発行の商品券で受け取った。

第2問 (10点)

次の10月におけるM商品に関する【資料】にもとづいて、下記の問題に答えなさい。なお、払出単価の決定方法として、先入先出法を用いるものとする。

【資料】

10月 1日	前月繰越	120個	@ ¥ 800
9日	仕入	400個	@ ¥ 780
12日	売上	450個	@ ¥1,500
18日	仕入	380個	@ ¥ 750
25日	売上	300個	@ ¥1,400

- 問1 答案用紙の商品有高帳 (M商品) を作成しなさい。なお、商品有高帳は締め切らなくて良い。
- 問2 10月のM商品の売上高、売上原価および売上総利益を答えなさい。

第3問 (30点)

答案用紙の×7年9月30日の残高試算表と、[×7年10月中の取引]にもとづいて、答案用紙の×7年10月31日の残高試算表を完成しなさい。

[×7年10月中の取引]

- 1日 商品¥900,000を掛けで仕入れ、当社負担の引取運賃¥30,000を現金で支払った。
- 2日 商品¥1,500,000を掛けで売り上げた。
- 4日 売掛金¥950,000が新宿銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 5日 買掛金¥240,000を新宿銀行の当座預金口座から支払った。
- 8日 商品¥700,000を掛けで売り上げた。
- 9日 商品¥850,000を掛けで仕入れた。
- 10日 所得税の源泉徴収額¥17,000を新宿銀行の当座預金口座から納付した。
- 11日 電子記録債権¥370,000が決済され、渋谷銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 12日 電子記録債務¥250,000が決済され、渋谷銀行の当座預金口座から支払われた。
- 17日 売掛金¥1,400,000について、電子記録債権の発生記録が行われたとの連絡を受けた。
- 18日 前期からの電子記録債権¥20,000が貸倒れとなった。貸倒引当金の残高はゼロである。
- 19日 買掛金¥1,300,000について、電子記録債務の発生記録を行った。
- 22日 受取手形¥130,000が決済され、新宿銀行の当座預金口座に振り込まれた。
- 23日 渋谷銀行の当座預金口座から新宿銀行の当座預金口座に¥100,000を送金した。
- 24日 支払手形¥300,000が決済され、新宿銀行の当座預金口座から引き落とされた。
- 25日 従業員の給料¥460,000から所得税の源泉徴収額¥18,000を差し引いた残額を渋谷銀行の当座預金口座から振り込んだ。
- 31日 水道光熱費¥36,000および通信費¥27,000が渋谷銀行の当座預金口座から引き落とされた。

第4問 (8点)

次の2つの取引について、振替伝票に行われる仕訳を答えなさい。

- (1) 備品を¥500,000で購入し、代金のうち¥200,000は現金で支払い、残額は未払いとした。出金伝票の記入は、次の通りである。

<u>出金伝票</u>	
×7年10月3日	
(備品)	200,000

- (2) 商品を¥730,000で売り上げ、代金のうち¥330,000は現金で受取り、残額は掛けとした。入金伝票の記入は、次の通りである。

<u>入金伝票</u>	
×7年10月8日	
(売掛金)	330,000

第5問 (32点)

横浜株式会社の次の×7年度末の決算整理事項にもとづき、答案用紙の精算表を完成しなさい。同社の会計期間は1月1日より12月31日までである。

1. 現金過不足について、決算日に改めて調査をした結果、受取手数料の記入漏れが¥5,000、通信費の記入漏れが¥8,000あることが判明した。残額については、原因不明のため適切な処理を行った。
2. 期末商品棚卸高は¥225,000である。売上原価は「仕入」の行で計算をすること。
3. 受取手形および売掛金の期末残高に対して、差額補充法により、3%の貸倒引当金を設定する。
4. 同社では、耐用年数は建物30年、備品10年、残存価額はゼロとして定額法で每期減価償却を行っている。なお、建物のうち¥600,000は×7年10月1日に購入されたものであり、上記と同じ条件で減価償却を行う。ただし、月割計算による。
5. 受取手数料の前受額は¥12,000である。
6. 貸付金のうち、¥100,000は×7年7月1日に、貸付期間1年、年利4%で貸し付けたものであるが、この分にかかわる決算日までの利息が未収である。なお、利息の計算は月割りによる。
7. 保険料は、×7年4月1日に保険に新たに加入し、向こう1年分を支払ったものである。
8. 広告宣伝費の前払額は¥6,000である。
9. 借入金のうち、¥300,000は×7年9月1日に、借入期間2年、年利5%で借り入れたものであるが、この分にかかわる決算日までの利息が未払いである。なお、利息の計算は月割りによる。